

千曲、難波新幕下昇進へ

再興から所要7場所で「初」の誕生

紙相撲第159回本場所(5月21日)8月26日・練馬国技館が千秋楽を迎えた。幕下昇進を狙った三段目の「新」部屋頭千曲海と難波山はともに3勝2敗で勝ち越し。部屋初の幕下昇進を確実にした。初土俵の2人はそろって負け越し。序二段付出しの栗駒は2勝3敗、序ノ口の花千鳥は1勝4敗。来場所は「160回記念場所」で幕下付出しの新弟子も加入し、9月23日(幕下以下は10月)に開幕する。

千曲・難波 W新幕下誕生の快挙
再興後初の新幕下誕生とダブル昇進の快挙に秋田部屋が沸いた。

千曲海は「秋田部屋の歴史をつくることができ、本当にうれしい」と喜び、難波山は「同期と(幕下に)上がれるなんて夢みたいだ」と感慨に浸った。

幕下を懸けた両力士の序盤戦は明暗が分かれた。初めて部屋頭に座った西三段目2枚目の千曲海が2連敗スタートとなった一方で、頭の座を明け渡した東同3枚目の難波山が初日から2連勝の好発進。勝ち越しに王手をかけ、新部屋頭の奮闘を促した。

あとがない千曲海は「幕下は考えない。自分の相撲を取るだけ」と雑念を捨て、3番相撲でようやく白星をつかむと勢いづいて連勝。難波山が先に勝ち越し、重圧がかかった4番目には自身初の浴びせ倒しを決め、星を五分にした。

第159回本場所・星取表

				初	2	3	4	千
【三段目】								
☆西	2	千曲海	単人	●	●	○	○	○
☆東	3	難波山	憲人	○	○	●	○	●
【序二段】								
★西	付出	栗駒	颯	○	○	●	●	●
【序ノ口】								
★西	……	花千鳥	朝陽	●	●	○	●	●

迎えた千秋楽。勝利して昇進を確実なものにした難波山は敗れるも、千曲海は同期の敗戦に動揺することなく戸田を寄り切りで制し大きな白星を手にした。ともに3勝2敗。連続勝ち越し記録を「5」に更新した2人は番付運も味方に念願の幕下をつかみ取った。

千秋楽を終え師匠は「同期で切磋琢磨してよくここまでできた。もう僕が教えることはないな」と冗談交じりに愛弟子の快挙を称えた。

記念場所となる来場所は同部屋からも幕下付出しの新弟子が入門予定。部屋の出世争いは混戦となる予想で、草創期から部屋を牽引してきた同期コンビも安穩としていられない。秋田勢が初めて幕下に名を連ねる来場所、誰が関取最有力候補に名乗り出るか。



秋田部屋
新弟子募集中

琵琶桜 淳 || 初土俵第157回、最高位東序二段付出、通算4勝6敗 ||、御成富士 淳 || 初土俵第158回、最高位東序二段付出、通算2勝3敗 ||、善ノ蔵和樹 || 初土俵第158回、最高位東序ノ口、通算0勝5敗 ||

新番付発表

日本紙相撲協会は5月21日、第159回本場所の新番付を発表した。秋田部屋関係の新弟子、引退は以下の通り。

【新弟子】
栗駒 || くりこま・はやて || 写真①、花千鳥 朝陽 || はなちどり・あさひ || 写真②

【引退】

秋田親方旅行記 2022(秋) ④

2日目(2022.11.4)は朝早く新幹線で盛岡駅を出発し、宇都宮駅に降り立った。名物といえば餃子が思い浮かぶが今回目指すのは「蒲生神社」。江戸前期に活躍したとされる「初代横綱・明石志賀之助」ゆかりのものが境内にあるからだ▼宇都宮駅を出てバスと徒歩で約30分、目的地の神社に到着。社名にもある通り前方後円墳の名付け親である蒲生君平が祀られているのだが「相撲神社」の異名を持つ。境内の入口にある横綱栃木山奉納の大鳥居がその理由の一つなのかもしれない▼鳥居をくぐり神聖な思いで参道を踏みしめながら奥へ進んでいくと本殿付近に明石の実物大(2m21cm)の石像が佇んでいた。どこかユーモラスな表情で愛らしい姿。後壁には「寛永元年 初代 横綱力士」と彫られている。その横には12代横綱陣幕が建立した「日下開山初代横綱力士明石志賀之助碑」と力強く彫られた碑が建っている。建立時は城址公園にあったがその後同地へ移動してきた▼明石に関する記録は後世による創作ばかりで相撲史家の間でも様々な議論を呼んでおり、未だ真の実態はわかっていない。だが、神のように祀っている明石像を眺めていると不思議と伝説の横綱の存在も信じたくなる…▼再び宇都宮駅へ。東口を散策していると開業を待つ次世代型路面電車(LRT)の停留所がある広場に真新しい明石像が建っていた。これも実物大なのだろうか。目が合うと畏れさえ感じる迫力がある▼今後も明石に関する論争は続くだろう。万が一にも、伝説を尊重する市民が望まないルーツが解明されてしまったらこれらの碑はどうになってしまうのか…ついそんな思いが頭をよぎった▼夕方5時頃餃子も食べず新幹線に乗り、宇都宮にさよならをした。(完)



(写真) ④宇都宮駅東口広場の明石像 ⑤蒲生神社の明石像



国技館初観戦
6月11日、第159回本場所5日目(育成会初日)を師匠秋田が現地初観戦した。打ち出し後には急遽懇親会(写真)が開催され、本場所の運営に携わる理事たちと情報交換し、有益な時間を過ごした。朝日松理事長からは来場所に迫った『160回記念場所』の概要が発表された。同場所の新弟子は一部屋一人に幕下付し、同理事長は「このチャンスをもっとしてほしい」と最短での関取昇進に期待を寄せた。

関取式



千曲海勝てばW幕下も！。幕下昇進の行方が決着する8月26日の千秋楽を胸を躍らせながら待っている。「思わぬ逆風」が吹いた▼7月中旬、秋田県を記録的大雨が襲ったのだ。広範囲が浸水した甚大な被害はまるで津波が街を飲み込んだかのように言葉が見つからなかつた。今年で40年の節目を迎えた「日本海中部地震」を思い出した県民も多かったはずだ▼幸い秋田部屋一帯の罹災は免れたが、いつ、どこで起こるか分からないのが自然災害。今夏の被害を機に改めて日頃の備えの重要性を痛感した▼そんな中での千秋楽。秋田勢は相撲を取れる幸せを噛みしめながら今場所最後の土俵に立った▼新部屋頭の千曲海が底力を見せ、剣が峰の勝ち越しを決めた。4番相撲で勝ち越していた同期の難波山とともに来場所の幕下昇進を濃厚にした▼土俵の内外で記憶に残る夏となったが、紙相撲に没頭できる平穏な日々への感謝と郷土愛を再確認した。つぎは部屋初の関取誕生で故郷に錦を飾りたい。
(師匠・秋田代行)